

## サステナビリティ推進室の活動

### Activities of the Sustainability Promotion Office

#### ABSTRACT

Amid growing global environmental and social challenges, sustainability has become increasingly important. Hosokawa Micron and its group companies aim to contribute to a sustainable society through powder technology, aligning with ESG principles. In 2023, we established the Sustainability Management Committee and Working Groups, followed by the launch of a new Sustainability Promotion Office in 2024 to accelerate company-wide efforts. We remain committed to integrating sustainability into our business and delivering long-term value.

#### 1 はじめに

世界各地で深刻化する環境問題や社会問題を背景に、サステナビリティの重要性が一層高まっています。「サステナブル（Sustainable）」とは、「持続可能な」「維持できる」といった意味を持つ言葉です。1970年代から環境保護の文脈で使われ始め、1987年には、国連の「環境と開発に関する世界委員会（いわゆるブルントラント委員会）」が発表した報告書『Our Common Future（われら共有の未来）』によって、その概念が広く知られるようになりました。加速する地球温暖化、天然資源の枯渇、急激な人口増加、貧困や格差の拡大など、さまざまな問題が世界各地で起こり、地球環境や社会の持続可能性が危ぶまれています。

昨今、多くの企業においては、経営方針や事業活動の中で、環境保護（E）、社会貢献（S）、企業統治（G）といった観点から諸問題の解決に取り組む「サステナブル経営」の導入が重視されており、持続可能な社会の実現に向けた貢献が強く求められています。ホソカワミクロンならびに当社グループのサステナビリティ経営について、企業理念を基盤とした持続可能な開発目標（SDGs）への道筋と、それを実現するための体制や取り組みの概要について紹介いたします。

#### 用語補足：

E : Environment (環境)

S : Social (社会)

G : Governance (企業統治)

#### 2 サステナビリティ経営への取り組み

##### 2.1 基本方針

ホソカワミクロンならびに当社グループは、「粉体技術の開発を通して社会に貢献する」との企業理念のもと、サステナビリティを巡る諸課題に対応しています。優れた技術を活かして顧客の多様なニーズに的確に応えるとともに、自然環境の保護や次世代のための環境保全にも積極的に取り組んでいます。

2023年10月に「ホソカワサステナビリティ経営委員会」およびその下部組織として「ホソカワサステナビリティ Working Group」（以下、WG）を発足させました。サステナビリティ全般や気候変動を含む環境に関する方針・施策の立案・実行の審議および決定を行っています。

また、全社的なサステナビリティの実態の可視化を図り、これまでの活動をさらに推し進めるために、2024年10月に新組織として「サステナビリティ推進室」を創設しました。

## 2.2 推進体制

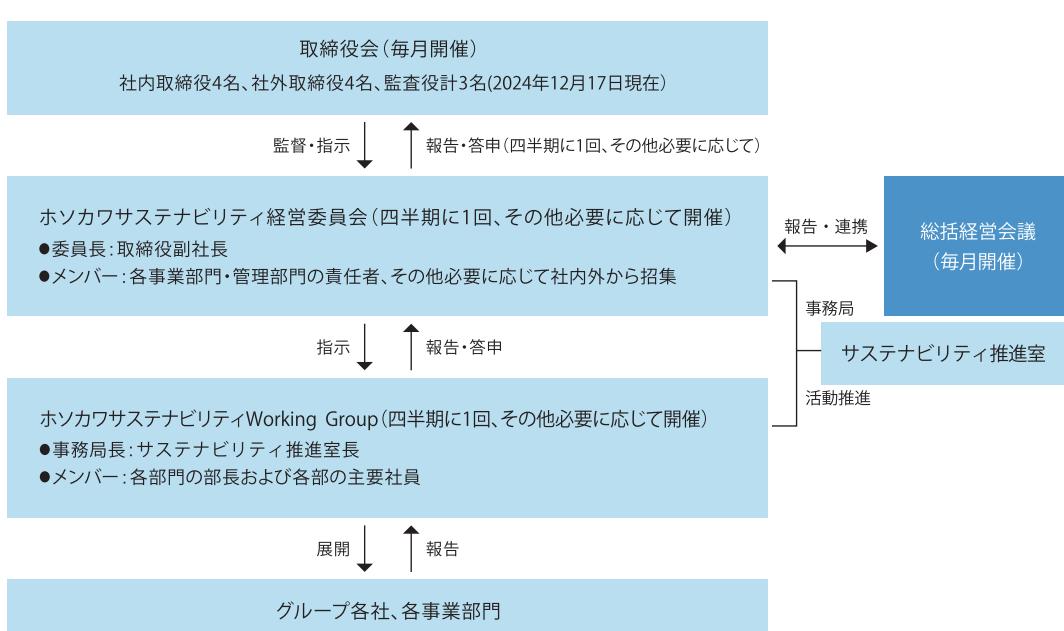
当社は、サステナビリティ課題の抽出・解決とガバナンスの高度化を図るため、「ホソカワサステナビリティ経営委員会」（以下、「委員会」）を設置しています。

委員会は、取締役副社長を委員長とし、各事業部門・管理部門の責任者で構成されています。

気候変動対応に関する重要事項は四半期に1回、そのほか（経営戦略の策定時など）については必要に応じてサステナビリティ課題を考慮し、取締役会に報告・答申を行い、監督・指示を受けます。また、

委員会の運営を補助するために設置されたWGは、委員会で取り上げる議案を取りまとめるとともに、委員会からの指示に基づく社内調整を行い、サステナビリティ施策について実務レベルでの協議・推進を担います。

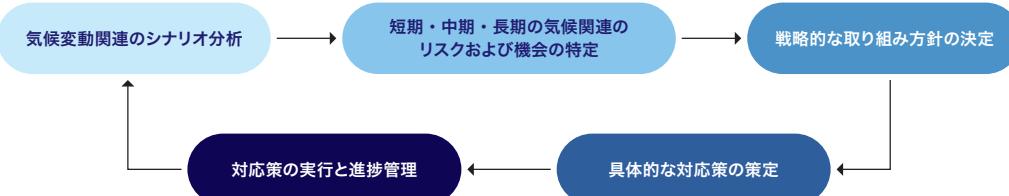
目標および計画の策定、重点課題の検討、ならびに進捗状況の確認を慎重に行い、リスクと機会、そしてそれらがもたらす影響について、ステークホルダーに対して適切に開示しています。組織体制は下図のとおりです。



## 2.3 リスク管理体制

当社グループ全体のリスク管理については、毎月開催される「総括経営会議」において、事業部門が経営・営業上の課題や海外事業の状況などを、全社的な視点から報告しています。これらの報告をもと

に、ホソカワミクロンならびに当社グループが直面する可能性のあるリスク情報を収集し、有効な対策を検討・実施することで、経営への影響度に応じた機動的かつ最適な対応が可能となるよう、リスク管理体制の構築に努めています。



### 3 マテリアリティ（重要課題）について

マテリアリティとは、SDGs や ESG の観点を踏まえ、企業が優先的に取り組むべき重要課題を指します。経済活動をしながら、環境や社会にも配慮するために、どのような施策をもって目標とするゴールへ向かうのか、その道筋をステークホルダーに明確に示すものであり、ホソカワミクロンならびに当社グループの指針としています。

マテリアリティについては、重要業績評価指標である KPI (Key Performance Indicator) を設定し、WG を中心に、各種課題への進捗状況の確認や新たな課題の抽出に努めています。

ここでは、ホソカワミクロンが掲げる 3 つのマテリアリティを紹介いたします。

- ・マテリアリティ（環境）Environment：「持続可能な地球環境への技術的貢献」

粉体処理技術を通じて、省エネルギー・資源効率の向上を図り、環境負荷の低減に貢献します。特に、微細化・分級・乾燥・表面改質などの技術を活用し、環境対応型製品の開発と提供を推進します。

- ・マテリアリティ（社会）Society：「安全・安心で豊かな社会の実現」

食品、医薬品、化粧品、電池材料など、生活や産業に密接に関わる分野において、高品質かつ安全性の高い粉体機器を提供することで、豊かな社会の実現に寄与します。また、労働安全や地域社会との共生にも配慮した事業運営を行います。

- ・マテリアリティ（ガバナンス）Governance：「事業を支えるガバナンスの高度化」

グローバルな事業展開において、品質管理・コンプライアンス・情報セキュリティなどの内部統制を強化し、持続可能な成長を支えるガバナンス体制を構築します。技術革新と事業の透明性を両立させることで、ステークホルダーの信頼を確保します。

### 4 サステナビリティ活動についての事例紹介

当社グループでは、以下のようなサステナビリティ施策を実施・推進しています（一例）：

- ・環境負荷の低減に資する製品の開発・応用・販売

温室効果ガス排出削減や食品廃棄・食品ロス削減に資する製品の開発を通じて、環境課題への対応を図っています。

- ・循環型経済と生活の質（Quality of Life）の向上への貢献

独自の粉体技術を活かし、資源の有効活用や快適な生活環境の実現に寄与する製品・サービスを創造しています。

- ・カーボンニュートラル技術への貢献

二次電池の性能向上（次世代を担う全固体電池の製造を含む）や、モーターの高効率化に欠かせない永久磁石の微粉化など、脱炭素社会の実現に向けた粉体技術の提供を行っています。

- ・再生可能エネルギーの活用

太陽光発電設備の導入を通じて、事業活動における再生可能エネルギーの利用を推進しています。

- ・温室効果ガス排出量の算定と削減施策の検討

事業活動に伴う GHG 排出量を定量的に把握し、さらなる削減に向けた施策を継続的に検討・実施しています。

- ・地域社会への貢献

地域の社会貢献活動に積極的に参画し、企業市民としての責任を果たし、地域社会との共生を重視しています。

- ・従業員へのインセンティブ制度の導入

全社員を対象に、従業員向けインセンティブ・プラン（RS 信託：株式給付型報酬制度）を導入し、働きがいのある職場づくりを推進しています。

### 5 最後に

当社グループは、サステナビリティ経営を推進するにあたり、事業活動を通じて社会課題を解決していくことこそが最も重要であると考えています。その実現には、従業員一人ひとりによる日々の地道な取り組みと、技術開発による革新が不可欠です。そして、ホソカワミクロンならびに当社グループは、これからも、顧客が直面する多様な社会課題の解決に資する製品・サービスの提供に真摯に取り組みを続けてまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。